

②	重点目標	1) 教育活動及び諸校務の適正かつ円滑な運営を図る。 2) 危機管理意識の高揚 3) 地域や関係団体との連携を深める。 ・ P T Aとの連携 ・ 同窓会との連携	P
③	現 状	・ 生徒数がここ数年で激減したため、いろいろと行事等のあり方を考える必要がある。 ・ P T Aの参加率の低さは、どこの学校でも言われることであるが、P T Aに対して、興味が無いということではない。 ・ 50周年（令和9年）に向け、同窓会やP T Aとの連携を開始する。 ・ にかほ市との連携がかなり進んできた。 ・ 保護者が本校の危機管理マニュアルを知らなかった。	
④	具体的な目標	・ 保護者に本校の危機管理マニュアルを提示する。 ・ 50周年に向けての同窓会、P T A等との連携強化。 ・ 総務の行事を見直して、生徒数の減少に対応できるようにする。	
⑤	目標達成のための方策	・ 分掌間の連携、月毎の学校行事等の調整。 ・ 学校要覧、分掌経営計画、校内規定集の整備。 ・ 危機管理意識の啓蒙。 ・ 関係団体との連携強化（50周年を見据えて）。 P T A活動の推進と充実。 同窓会の組織強化と活動の促進。	
⑥	具体的な取組状況	・ 「防災の日」の実施により、様々な防災についての確認ができています。 ・ P T Aとは、由利本荘・にかほ地区の連絡会議を通して、より協力ができるようになっており、同窓会も50周年に向けて、協力をしてくれる手応えがある。	
⑦	達成状況	・ 危機管理マニュアルの提示は、管理職の方で具体的に作成されている。掲示も可能と思われる。 ・ 50周年に向けての同窓会、P T A等との連携強化はかなりできているように感じる。	
⑧	自己評価	(評価) A 今年目標としたことは、具体的に実現できているように思われるため	C
↑ 評価基準 ↓		A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A (意見) 目標を達成している。P T Aの参加率を一考してほしい。不参加は興味がないわけではないことは理解できるので、その解決が大事である。予測不能な災害に対し防災対応をよろしく願いしたい。非常時の安全確認は親と共有してほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後の課題として、関係者の評価を受け、P T Aの参加率を一考する。しかし、来られない方に紙面会議という手段を提供することも検討したい。	

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

教務部

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を喚起させるため、学習環境の質的向上を図る。 ・基礎的・基本的学力の定着、学習に向かう姿勢の確立に向けた取組を推進する。 		P
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲の向上に向けて組織的に授業改善に取り組んでいるが、家庭学習時間や課題の提出状況を見ると、学習意欲の向上に結びついていない現状がある。 		
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値を上げる。昨年度3.66→3.70 		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を効果的に活用する。 ・授業のユニバーサルデザイン化を促進する。 ・学ぶ意欲の向上につながる学習評価を実施する。 ・探究活動、資格取得活動を充実させる。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導と評価の一体化」のための学習評価の実践について、職員研修を行った。 ●授業改善旬間では思考力・判断力・表現力を育むための授業の工夫を推進した。 ●授業のUDとICTについてCan-doリストを作成した。 ●授業改善についてチラシ等を作成して共通理解を図った。 ●家庭学習時間の分析を行った。 		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価「総合的に学ぶことが『楽しい』『役に立つ』『やる気が出る』と思える授業ですか」の項目の数値 → 3.68 		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 目標達成に向けて取組を行っているが、学習意欲の向上の数値は不十分であった。授業アンケート→3.68 (+0.02)	C
		<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 目標達成に向けた取組を評価する。現在の進め方で継続してほしい。生徒の学習内容を知らせることがPTA参加にもつながるのではないか。デジタル機器が活用され生徒が学習に意欲的である。生徒の目標設定と達成状況を教諭と共有し、生徒のやる気が出る指導を願いたい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒の学習意欲向上に向けて、授業改善に取り組むとともに、引き続き「指導と評価の一体化」の実現に向けて理解を深め、組織的に取り組んでいけるようにする。		

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 生徒指導部

②	重点目標	・他者を尊重しつつ、主体的に考え行動できる生徒を育成する。		P
③	現 状	・他者を尊重しなければならないことを理解しつつも利己的な言動によって人間関係をうまく構築できない生徒が見受けられる。又、自主性に乏しく何事にも受け身の生徒が多い。		
④	具体的な目標	・仁賀保高校の一員としての自覚を持ち、その場の状況に応じた言動ができる生徒を育成する。		
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重する意識を育むため、授業や学校行事、集会等あらゆる学校生活の場面で積極的に働きかける。 ・日常的な声かけを通して生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見や未然防止を図る。 		
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事等の様々な場面で折に触れて利己的な言動は慎むよう指導し、集会においては学校生活の状況や問題点を伝える際に他者を尊重することの重要性について考えさせるようにした。 ・いじめ防止委員会を適宜開催して各学年部と緊密に連携をとり、情報を共有しながら、生徒の小さな変化も見逃さないよう実態の適切な把握と対応に努めた。 		
⑦	達成状況	・他者を尊重する意識は浸透しつつあるが、自分本位の考えで行動してしまう生徒が一部に見られる。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) ・全体的には他者を思いやることのできる生徒が多いのだが、自己中心的な言動による、特にSNSにおいての問題があった。	C
		↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 目標達成に向けた取組を評価する。SNS、スマホの問題は中学校から続いている。子どもの行動、変化に気を付けて対応していただきたい。本能的な行動を起こす年代と思うが、根気強い指導をお願いする。以前よりも人権意識が定着しているように感じる。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を尊重する意識を育むため、他者の状況や感情に理解を示し共感することの大切さをあらゆる場面で考えさせる。 ・自己肯定感を高め、自己も尊重することができるようになるための働きかけを、全職員が協力して実施する。 		

②	重点目標	1. 基礎学力の定着を図り、個々の進路希望達成に必要な発展的能力や学力を伸長する。 2. 3年間を見通した進路指導計画を作成する。 3. 自立心を育成し、教員と就職支援員が連携しながらキャリア形成を支援する。	P
③	現 状	1. 基礎学力定着度が低い。基本的な生活習慣からの指導が必要な場合もある。 2. 進路希望がはっきり決まっていない生徒に対する科目選択の指導が難しい。 3. 「デジタルアカデミックインターンシップ」についての理解も進み、地元でも受入れ先が増えつつある。しかし、「進路決定に繋がるインターンシップ」と相反する面もあり、令和5年度2年生はインターンシップを2回行った。 4. 進学希望者に対する系統だった指導が難しい。進学コースが無くなったので、3年間を見越した組織的系統的な進学指導体制作りが緊急課題である。	
④	具体的な目標	生徒の希望と適性を見極めた、進路決定率100パーセント達成	
⑤	目標達成のための方策	1. 朝読書を取り入れた朝学習や、授業と連携した課題により学習習慣を身につけさせ基礎・基本の定着を図る。また機に応じて、進路希望に応じた補習を実施する。 2. データや各学年のノウハウの蓄積を基に、3年間を見通した進路指導計画を作成する。また外部人材による講座や職場体験の充実を図る。 3. 生徒の進路志望や面談等の状況を、職員間で連携して共有し、個々に講じた効果的なキャリア形成の手立てを考え、支援する。	
⑥	具体的な取組状況	1. 各学年部の計画により、朝読書や朝学習を実施し、英語・数学を中心とした家庭学課題の提出状況は改善傾向にある。今後はレベルアップが必要である。 2. デジタルのインターンシップも地域の企業に少しずつ理解が広まっている。実際に生徒が就職する事業所や職種とのマッチングが今後の鍵となる。 3. 校内ネットワークのフォルダ内で生徒情報を機密を保ちつつ共有している。	
⑦	達成状況	目標達成に向けての取組は概ね達成できていて、改善点も把握できている。	
⑧	自己評価	A 今年度の就職試験は、複数回受験する生徒も多くいたが、お陰で自らの適性をしっかりと見据えて就職先を決めることが出来たと感じる。	C
	↑ 評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
⑨	学校関係者評価と意見	A 進学コースがなくとも進学指導し、就職決定100%は素晴らしい。就職は当面売り手市場なので、進学も増やす工夫をお願いする。インターンシップを通じて地域企業に興味をもってもらいよかった。現在の進め方でやってほしい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	少人数でも、進学を希望する生徒は必ずいる。その生徒のモチベーションを保つために個別の面談や声掛け、学力伸長のための指導を粘り強く行っていきたい。そのために、これまで以上に職員間で情報共有を図り、協力体制を整えていく。 また就職指導に関しても、志望する企業や職種とのマッチングに留意し、生徒のチャレンジ精神を尊重しつつ、長い目で見て納得のいく就職活動を行いたい。	A

②	重点目標	1 集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 2 集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 3 学校行事や部活動を通して主体性や礼儀、忍耐力を身に付けさせる。		P
③	現 状	・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事さらには部活動、ボランティア活動等へ積極的に取り組むことで、生徒は主体性や協調性を身に付けてきている。部員不足により活動が制限される部が複数ある。		
④	具体的な目標	・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築きながら、自主的、実践的な態度と礼節を重んじる心を育てる。		
⑤	目標達成のための方策	1 生徒会及び地域の行事・部活動へ積極的に参加する生徒を育成する。 2 自分の考えを述べるができる生徒会、委員会活動の推進を促す。 3 ボランティア活動への自主的な参加を推進する。 4 充実した集団生活の確立をめざすホームルームの経営を推進する。		
⑥	具体的な取組状況	・生徒数の減少等の弊害が生じている中で、年間に予定されていた学校行事を工夫して実施することができた。 ・部活動では、兼部・臨時制度を認めていくことで、大会に参加できた部があり活躍することができた。 ・ボランティア活動では、象潟トライアスロン全校ボランティアに取り組むことができた。		
⑦	達成状況	・生徒の主体性を尊重しながら学校行事を一段と工夫し遂行することができた。 ・部活動については、活躍する部がいくつか出てきた。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) ・全ての学校行事を生徒の主体性を尊重しながら工夫して実施することができた。それによって生徒の企画力や団結力が高まり、集団の一員としての自主的・実践的な態度が身につけることができたことは評価できる。	C
		↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 生徒数が少ない中で行事、部活動を工夫し実施していることを評価する（同意見あり）。学校行事では生徒がアイデアを出し、積極的な取り組み姿勢が見られた。ボランティアには今後も積極的に参加していただきたい。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	来年度は体育祭と球技大会を一つにして、5月末に「総合体育祭」として実施する。また、部活動は来年度から段階的に精選していき、兼部・臨時制度も見直していくことになった。ボランティア活動では、地域に根ざした活動を今後も積極的に参加していきたい。		A

《学校評価シート（高等学校）》

① 評価領域 健康教育部

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導の充実 ・校舎内外の美化の推進 ・救急体制の充実と意識向上 	P			
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症への対策が求められる。感染症も散見される。 ・生徒数の減少により清掃区域を減らしている。 ・食物アレルギーの生徒が在籍しており、卒業まで毎年対応を学ぶ必要がある。 				
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症や感染症の対策を周知する。また、測定機器を用いて客観的に状況を判断し適切に対応する。 ・大清掃や清掃強化週間も活用し、環境衛生の意識の向上と校内美化を図る。 				
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス等の感染症への対応を職員・生徒・保護者に引き続き周知し、蔓延防止に務める。 ・健康管理に関して、職員及び必要に応じて保護者との連携を密に行う。 ・校舎内外の美化に努め、生徒の清掃に対する意識の向上を図り、快適な学習環境を保つ。 ・保健美化委員会と協力して、校舎内外の美化向上に努める。 ・全職員対象の食物アレルギー講習会と救命救急講習会を実施する。 				
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康管理については、養護教諭を中心に学年部や他分掌と連携しながら実施した。保健だよりや各種機器も活用した。 ・5月に全校外清掃の時間を設定した。例年通り大清掃と清掃強化週間も実施し、その際具体的な清掃のポイントを示し周知した。 ・講習会の実施及び危機管理マニュアルの見直しを行い、安全管理に対する意識を高めるようにした。 		D		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外の美化については、生徒数を考慮しつつ効果的な方法を工夫する必要があるが、概ね計画通りに遂行できた。 				
⑧	自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">(評価)</td> <td style="width: 10%;">A</td> <td style="width: 80%;">(根拠) 特に健康面については、保健だよりでの注意喚起と具体的な取組や対策の紹介、測定機器を用いた客観的判断と対応、講習会の実施等により、大きな問題は無かった。危機管理マニュアルの見直しも行った。</td> </tr> </table>	(評価)	A	(根拠) 特に健康面については、保健だよりでの注意喚起と具体的な取組や対策の紹介、測定機器を用いた客観的判断と対応、講習会の実施等により、大きな問題は無かった。危機管理マニュアルの見直しも行った。	C
(評価)	A	(根拠) 特に健康面については、保健だよりでの注意喚起と具体的な取組や対策の紹介、測定機器を用いた客観的判断と対応、講習会の実施等により、大きな問題は無かった。危機管理マニュアルの見直しも行った。				
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>						
⑨	学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">(評価)</td> <td style="width: 10%;">A</td> <td style="width: 80%;">(意見) 目標を達成している。生徒数の減少により清掃に手が回らないのは課題である。今後もコロナ、インフルエンザ等の感染に注意してほしい。</td> </tr> </table>	(評価)	A	(意見) 目標を達成している。生徒数の減少により清掃に手が回らないのは課題である。今後もコロナ、インフルエンザ等の感染に注意してほしい。	C
(評価)	A	(意見) 目標を達成している。生徒数の減少により清掃に手が回らないのは課題である。今後もコロナ、インフルエンザ等の感染に注意してほしい。				
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>校舎内外の美化の推進のため、大清掃及び清掃週間の効果的な活用を行う。(重点項目の周知強化とスモールステップでの取組・評価。) 通常清掃区域以外の清掃の日を設定する。(学校安全日に合わせ、月1回程度。) 生徒委員会を活用する。</p>	A			

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

健康教育部（教育相談）

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校・学校不適応生徒への早期対応 ・生徒の自立や自己実現のための支援体制の確立 ・教育相談に対する生徒や職員、保護者の啓発 	P				
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校や小学校で不登校だった生徒が多く入学している。 ・生徒数の減少により所属が限定され、教室以外の人間関係や居場所作りが難しくなっている。 ・対人関係への不安や苛立ちが身体症状や言動に表れることも多い。 					
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい環境を整え職員・生徒・保護者への情報提供を行い、自立や自己実現に向けた支援を行う。 ・カウンセラーや外部の相談機関とも連携して対応する。 					
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒について、全職員や各家庭との情報交換を積極的に行う。 ・各学期に1～2回、特別支援教育校内委員会を開催する。（必要に応じて適宜開催する。）内容により教育専門監の派遣を要請する。 ・生徒向けのスクールカウンセラー講話を実施する。 ・1学年PTAでカウンセリングについて紹介する。 ・教育相談便りを定期的に発行する。 ・教育相談担当が研鑽に努め、研修成果を広く職員に提供する。 					
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報は該当学年等と共有し、家庭との連携に努めた。 ・特別支援教育校内委員会を開催し、支援の方向性や方法を模索した。 ・「自分を知る、相手を知る、人と関わること」と題して生徒向けのスクールカウンセラー講話を実施した。エゴグラムも、実施後に結果をまとめ評価・解説していただいた。1学年PTAでカウンセリングについて紹介し、「教育相談だより」を季刊発行した。 ・情報誌や研修等を通じて得た知見を関係職員と共有した。 		D			
⑦	達成状況	<p>スクールカウンセラーの活用は概ね順調である。新規に4名の生徒が相談につながり、生徒自身や関係職員に対してそれぞれ対処方法等のアドバイスをしていただいた。特別支援については対応の難しさも感じながら支援に努めている。</p>					
⑧	自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td style="width: 80%;">(根拠) 研修成果の提供が限定的であり、全職員対象の校内研修は実施できていない。気になる生徒について指導計画を作成し、生徒理解の推進を図ることができた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> </tr> </table>	(評価)	(根拠) 研修成果の提供が限定的であり、全職員対象の校内研修は実施できていない。気になる生徒について指導計画を作成し、生徒理解の推進を図ることができた。	B		C
(評価)	(根拠) 研修成果の提供が限定的であり、全職員対象の校内研修は実施できていない。気になる生徒について指導計画を作成し、生徒理解の推進を図ることができた。						
B							
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>							
⑨	学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td style="width: 80%;">(意見) 特別支援委員会の取組を評価する。カウンセリングに対して、相談しやすい環境がよかった。カウンセラーの活用で心のケアも充実させてください。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> </tr> </table>	(評価)	(意見) 特別支援委員会の取組を評価する。カウンセリングに対して、相談しやすい環境がよかった。カウンセラーの活用で心のケアも充実させてください。	A		C
(評価)	(意見) 特別支援委員会の取組を評価する。カウンセリングに対して、相談しやすい環境がよかった。カウンセラーの活用で心のケアも充実させてください。						
A							
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>保健だよりや教育相談だより、相談室前壁面の一層の活用を努め、カウンセリング日程の周知やセルフコントロール方法の紹介等を行っていく。全職員対象の校内研修を実施し、生徒理解を推進する。</p>	A				

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域	教育情報部
------	-------

②	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報機器の管理と情報モラルに対する意識を高める。 ・教員のICT活用能力の向上を図り、授業改善に資する。 ・施設、設備、機器を適切に運用する。 	P				
③	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookを大切に使うよう、教員が日々指導している。 ・昨年よりも多くの場面でICTの活用がなされるようになり、ペーパーレス化も進んでいる。 					
④	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前年より破損・故障件数を減らす。 ・職員研修を行い、より一層のICT活用を促進する。 ・施設、設備、機器を良好な状態に保つ。 					
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分掌や教科と連携し、様々な機会を捉えて情報機器の管理と情報モラルに関わる指導を行う。 ・必要や要望に応じた研修の実施や有用な情報の提供に当たる。 ・授業や特別活動での図書室利用を推進する。 ・県立学校学習ネットワークシステム及びe-AKITAの管理・運用、各種視聴覚機器の維持・更新に当たる。 					
⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTオリエンテーションを実施し、機器を丁寧に使用するよう指導した。 ・figjamについての職員研修を行った。自動採点システムを使用する教員も増えており、業務の効率化が進められている。 ・図書館利用に関するアンケートを実施し現状の把握に努めた。 		D			
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookの破損・故障件数は21⇒8件と大幅に減少した。 ・蔵書の更新を順調に進んでいるが、利用向上に至っていない。 ・授業や校務において、ICTの活用が高まっている。 					
⑧	自己評価	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>・図書館利用についてのアンケート結果から、読書の習慣のない生徒でも、興味関心のある本があれば読んでみたいと回答していることから、よりバラティに富んだ蔵書の更新が必要だと考える。</td> </tr> </table>	(評価)	(根拠)	B	・図書館利用についてのアンケート結果から、読書の習慣のない生徒でも、興味関心のある本があれば読んでみたいと回答していることから、よりバラティに富んだ蔵書の更新が必要だと考える。	C
(評価)	(根拠)						
B	・図書館利用についてのアンケート結果から、読書の習慣のない生徒でも、興味関心のある本があれば読んでみたいと回答していることから、よりバラティに富んだ蔵書の更新が必要だと考える。						
<p>↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>							
⑨	学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>(評価)</td> <td>(意見)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>教科書以外の活字を読む機会が少なくなっているこどもがどうすれば本に興味をもってくれるかは難しい課題である。読書の楽しさを伝える工夫をお願いしたい。</td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	B	教科書以外の活字を読む機会が少なくなっているこどもがどうすれば本に興味をもってくれるかは難しい課題である。読書の楽しさを伝える工夫をお願いしたい。	C
(評価)	(意見)						
B	教科書以外の活字を読む機会が少なくなっているこどもがどうすれば本に興味をもってくれるかは難しい課題である。読書の楽しさを伝える工夫をお願いしたい。						
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の運営については、活字に触れる機会を多く提供するよう、教科や学年部とも連携を図り、利用促進につなげていきたい。 ・1年生の入学時にアンケートを実施 ・情報モラル教育について分掌内で研修を行う。 	A				